

知 辺 第 80 号
平成29年1月27日

沖縄等米軍基地問題議員懇談会
殿

沖縄県知事
翁長 雄志

辺野古新基地建設問題等に関する要望について

沖縄等米軍基地問題議員懇談会の皆様におかれましては、本県における基地問題の解決のため、平素より格別の御理解と御配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先の最高裁判決後、政府は直ちに新基地建設に向けた作業を再開し、今春にも埋立てに向けた本格的な工事が始まるおそれがあり、その阻止に向けた対応は喫緊の課題であります。

沖縄県は、戦後71年以上にわたり日米安保体制を支え続けてまいりました。辺野古への新基地建設は、国土面積のわずか0.6パーセントに過ぎない沖縄県に、在日米軍専用施設面積の約71パーセントに及ぶ広大な米軍基地が存在するという過重な基地負担と格差の固定化につながることになり、到底容認できません。

また、新基地が造られようとしている辺野古・大浦湾の自然環境は、世界的にも貴重な生物多様性が残された奇跡的な海であり、絶滅危惧種262種を含む5,800種以上の生物が確認されています。このうち約1,300種は分類されておらず、新種や希少種等の可能性が極めて高い生物であります。国はそれらを学術的に調査することもなく、また、それらを保護する一切の措置を施すことなく工事を行い、絶滅に追いやろうとしています。

さらに、平成26年以降に行われた県知事選挙をはじめとする一連の選挙で、辺野古新基地建設に反対する県民の民意が示され続けていますが、政府は一顧だにしません。これは、憲法で認められた地方自治をないがしろにするものであり、民主主義国家としてあるまじき姿勢であります。

一方、市街地の中心部に位置する普天間飛行場は、住民生活に著しい影響を与えていることから、周辺住民の航空機事故への不安や騒音被害などを解消することが喫緊の課題となっております。

本県の切実な課題を踏まえ、下記のとおり要望いたしますので、特段の御配慮をお願い申し上げます。

記

- 1 県民の理解を得られない辺野古への新基地建設計画の断念に向け、沖縄等米軍基地問題議員懇談会として積極的に取り組むとともに、会員の皆様には所属政党としても取り組んでいただけるよう働きかけていただきますよう要望します。
- 2 辺野古・大浦湾海域における1,300種にのぼる未記載種の徹底的な調査・保全が実施されるまでの間、工事を直ちに中止し、希少生物の保護を図るよう政府に働きかけていただきますよう要望します。併せて、懇談会員の皆様の豊富なネットワークを活用し、国内外の自然保護団体等にこの問題の重要性について訴えていただきますようお願いいたします。
- 3 市街地の中心部に位置し、住民生活に著しい影響を与えている普天間飛行場の危険性の除去は喫緊の課題であり、5年以内の運用停止の実現や実効性のある騒音軽減措置の実現等について政府に働きかけていただきますよう要望します。